2021年春の年会

シニアネットワーク連絡会セッション

WEB 方式による対話会の課題と今後の展望

Challenges and prospects of an online dialogue meeting

（1）WEB 方式による対話会の活動状況報告

(1) Activity status of WEB way dialogue meeting

*大野　崇 [1]

[1]SNW

2020 年度の対話会は、新型コロナウイルスの影響により、中止あるいは WEB 方式による遠隔対話を余儀なくされた。本稿では、2020 年度に実施した WEB 対話の実施状況を、対話環境面及び学生の受け止めの観点から紹介する。

１．従来の対面方式による対話活動

SNW は、シニア各人が培ってきた見識と経験を活かしエネルギー、原子力、放射線の理解促進活動に取り組んできている。この一環として、次世代を担う若者たちとの対話の機会を作り、意見を聞き、疑問に答え、励まし、シニアの経験と考えを伝え、若者に夢と希望を与え、彼らが次世代を担う気概を自ら育む手助けをすることを目的に対話活動を行ってきた。このためには、学生とひざを交え話し合うことが一番との考えから、学校の先生方と十分調整の上学校に赴き対面による対話活動を行ってきた。対面による標準的な対話の流れ及び活動風景を図１、図２に示す。

図１　標準的な対話会の流れ

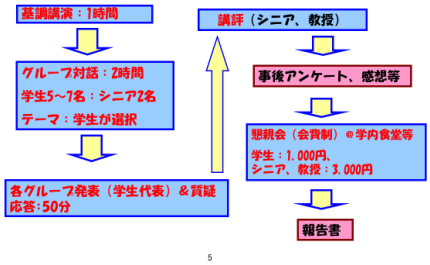

図２　対話会の様子

２．WEB 方式による対話活動

2020 年度の対話会は突如新型コロナウイルス旋風に巻き込まれた。我国における新型コロナウイルス禍は、2019 年 12 月の中国湖北省武漢市で原因不明の肺炎患者確認のニュースから始まる。2 月 5 日の「ダイヤモンドプリンセス号」横浜沖で 14 日間の船上隔離、2 月 27 日首相の全国学校に臨時休校を要請、4 月 3 日世界の感染者数 100 万人突破、4 月 7 日に政府が緊急事態宣言を発出するに及び、今年度予定されていた対話件数 26 件の内、12 件が WEB 方式（1 部対面と WEB 方式の HYBRID 方式）となった。2019 年には実施が 19 件であったことするとコロナ禍で大きな影響を受けたといえる。

以下に WEB 方式対話の課題を述べる。

1)WEB 環境の整備

WEB 環境が整備されていることが必須である。当初、SNW 側で ZOOM 等利用による WEB 対話を検討したがパソコン等を所有していない学生もいて WEB 環境が学校により異なることから学校の WEB 授業システム利用が実際的である。このことから、全ての対話において学校側に全面的に依存し事前リハーサル等による事前準備のもと進めた。学校側も急遽コロナ対策に WEB 授業を取り入れたことから環境整備に温度

差が見られたがやむをえないことであった。

2)双方向コミュニケーション

これが WEB 方式の最大の課題である。学生は個々に対話に参加することとなるため、シニアと学生との触れ合いが画面と音声とでしかできずどうしても双方向コミュニケーションが制限的となる。今後、システム改善がなされていくと思うが、少しでも意思の疎通を図り実のある対話ができるような工夫が必要となる。今年度対話会では事前学習をとりいれた。対話は、基調講演とグループ討議からなる。基調講演はシニアからの講義であり学生との質疑方法に検討の余地はあるが基本は講義であるので WEB 授業と変わらず特に不都合は生じなかった。問題は、グループ討議で対面方式のように Face to Face の形が取れないので学生の疑問に対し十分な討議ができないことである。事前学習はグループに与えられた対話テーマについてシニアが情報を事前に提供し学生がよく読んで事前質問を考え提出しグループ討議で深堀するというものであり理解を少しでも深めようとするものである。シニアが醸し出す人間性を感じもらうことはできないがテーマを自分の問題として捉えて事前に考えるという点では効果的であったと思われる。

表１　事前学習例

事前学習資料	事前質問
講演資料 ・世界と日本のエネルギーの実態（文明とエネルギー利用、エネルギー資源の種類、エネルギーの必要条件（３E＋S）と比較、世界と日本のエネルギー事情） ・原子力発電の基礎と安全確保、核燃料サイクル（核分裂と放射線、世界と我が国の原子力発電の歴史、炉型は２つある（PWR,BWR）、東電福島第事故と安全強化対策、核燃料サイクルと高レベル放射性廃棄物地層処分） ・第５次エネルギー基本計画と今後（エネルギー基本計画とエネルギーミックス、第５次エネルギー基本計画と現状、世界の原子力発電の潮流、2050 年カーボンニュートラルに向けて、2050 年エネルギーミックス試案）	事前質問 ・放射線が危険な原子力を、世界の電力の１６％を供給している今の状態から 2050 年までに 25%を目標と増加させようとしているのはなぜか ・再生可能エネルギーは何とか達成できるものや困難なものがあるがこれから主流になっていくものは何か ・バイオマス発電はこの先の未来でどのように発展し、日本中に増えていくと思いますか？ ・原子力発電を普及していくには、安全面の向上以外にどんな策が効果的だと思いますか？ ・再生可能エネルギーのエネルギー密度の低さを補うために、数を増やすべきだと思いますが、なぜ増やせないのでしょうか？ ・温暖化なのに、なぜ冬は余計に寒くなるのでしょうか？

3)学生の受け止め

各学生へのアンケート結果から WEB 対話に対する学生の主要な意見を示す。種々な意見が見られたが肯定的意見は、WEB 授業を早くから取り入れ慣れている学校の学生に多く見られた。

<u>改善を望む意見</u>

・講義はどのような場所でも聞けてよいがディスカッションは対面の方がよい。
・同じ受講生の顔が見えないことや、自分の考えがきちんと伝わっているか不安。
・直接会って話したかった。
・操作を要するので話し合いのテンポが悪い
・途中回線遮断が見られネット上で行うことへの慣れが必要

<u>肯定的意見</u>

・WEB 授業で対面形式のようにはいかないことは経験しているが、講師の熱意はよく感じた。
・学生はオンラインになれており、今後オンライン対話は可能
・適切な進行により一定の双方向性があった。

4)まとめ

コロナ禍の影響で WEB 対話を余儀なくされた。先生の絶大なるご支援のもと何とか成り立った。心から感謝申し上げたい。第 3 波襲来で来年度も多くに学校で WEB 対話は避けえないと思われるが、やはり対面方式に比べ双方向コミュニケーションに難があり更なる工夫が必要であると感じた。

*Takashi Ohno[1]
[1]Senior Network